

ありがとうを言うこと

玉津小学校四年 中井 梁太郎

僕は、人権週間で人権かるたをしました。その中で心に残った読み札が、「ありがとうみんな笑顔になる言葉」です。こう思う様になったのはあることがきっかけです。

一学期に学校で「ありがとう」という言葉の意味を考える授業をしたことがありました。そこで、ありがとうには人を幸せにする、うれしくなる、友情が芽生えるなどのいろんな力があることがわかりました。それで僕は、ありがとうに人を幸せにする力があることがしれて、その夜早速「ありがとう」と言ってみたくなくなってしまいました。そして、その次の日に、荷物を用意するのをお母さんが手伝ってくれたときに、学校の授業で学んだことを思い出して「ありがとう」と言いました。ありがとうと言ったときにお母さんの顔を見てみると、とても嬉しそうに微笑んでいました。実際にやってみると授業でやったことは本当なんだなと思いました。

また別に、ありがとうと言われた時のことも考えてみました。4年の2学期にお母さんとお父さんと二段ベッドを組み立てたことがありました。その時、僕がドライバーをもってきたらお父さんがちやうどネジをはめるところでした。お父さんはドライバーがなくて困っていました。ちやうどそこに、ドライバーをもってきた僕がい

ました。僕がドライバーを渡すと、とても喜んで「ありがとう」とにこにこして言ってくれました。その時僕は、嬉しくなって自然と、にやにやしてしまいました。この時も授業で学んだことは本当にそうなんだなと思いました。

この授業がなかったら僕は一生ありがとうの意味なんてあるのかなと、思っていたと思います。でも、授業がきっかけでありがとうの大切さを今も時々思い出します。ありがとうは、つい出てしまうみんなが笑顔になるいい言葉だと思います。僕は、この言葉を大事にしながら、みんなにたくさんありがとうとお礼をいつていきたいと思っています。